

山北町第6次総合計画 基本構想（素案）

2023（令和5）年5月

目次

第1編 総論	1
--------------	---

第1章 総合計画の策定	1
1 計画策定の目的と位置づけ	1
2 計画策定の趣旨	1
3 計画の構成	3

第2章 町民意識とまちづくりの課題	4
1 町民アンケート結果の概要	4
2 まちづくりの課題	7

第2編 基本構想	9
----------------	---

第1章 基本理念	9
～まちづくりのキーワード～	9
1 柔軟性	9
2 機動性	9
3 持続可能性	9
～SDGsの推進～	10

第2章 将来像	11
---------------	----

第3章 将来フレームと土地利用	12
1 将来フレーム	12
2 土地利用構想	14

第4章 重点プロジェクト	15
1 元気創出プロジェクト（やまきたチャレンジ）	15
2 魅力向上プロジェクト（やまきた版 Well Being）	17

第5章 分野別構想	19
1 健康福祉分野	19
2 教育文化分野	19
3 生活環境分野	19
4 産業振興分野	19
5 都市基盤分野	19
6 行財政分野	19

第1編 總論

1 計画策定の目的と位置づけ

山北町第6次総合計画は、山北町の定める計画の中で最上位に位置づけられる計画であり、山北町自治基本条例の目的である『町民一人ひとりが互いに協力して日々の暮らしの中で山北町に住む喜びと誇りを実感できる協働のまちづくり』を進めるため、基本的な考え方を明らかにし、山北町の将来のあるべき姿に向けた行政運営の指針として策定するものです。

2 計画策定の趣旨

山北町では、山北町自治基本条例を制定し、平成25年4月より施行しています。この中で、町民、行政及び議会が対等な立場で参加する協働によるまちづくりを求め、まちづくりを中長期的な視点で捉え、総合的かつ計画的な行政運営を図るため、総合計画を策定しなければならない旨を規定しています。

令和5年度までの10年間を計画とする山北町第5次総合計画では、「みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた」を将来像とし、「町民力・地域力を発揮するプロジェクト」「若者定住・子育て支援プロジェクト」を重点プロジェクトとして、各種施策を展開してきました。

こうした中、2015年の国連サミットで採択された「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」では、SDGs (Sustainable Development Goals) が、先進国を含む国際社会共通の目標として位置付けられ、持続可能な社会に向けた動きが求められています。また、新型コロナウイルス感染症の流行、ロシアによるウクライナへの侵攻等により、人の動きや物流、エネルギーや物価など、私たちの暮らしにも影響が出ています。

国内に目を向けると、人口減少、少子化、高齢化の波は収まらず、全国各地で規模の大きな地震が頻発し、温暖化の影響と思われる極端な気象が続くなど、これまでとは異なる社会経済状況となっています。こうした変化に的確に対応していくためには、機動的で柔軟な動きが求められます。

そのため、将来のあるべき姿を描き、その姿に向かってみんなで取り組みつつ、機動的で柔軟性をもった行政運営ができるよう、山北町第6次総合計画を策定するものです。

<山北町総合計画策定の経緯>

昭和 45 年 (1970 年)	山北町総合計画
昭和 55 年 (1980 年)	山北町新総合計画 ～心がふれあう水と緑の町～
平成 2 年 (1990 年)	山北町第 3 次総合計画 ～心がふれあう水と緑の町～
平成 12 年 (2000 年)	山北町第 4 次総合計画 ～さわやかな風がふきぬけるきらめきと交流の町～
平成 26 年 (2014 年)	山北町第 5 次総合計画 ～みんなでつくる 魅力あふれる元気なまち やまきた





第2章 町民意識とまちづくりの課題



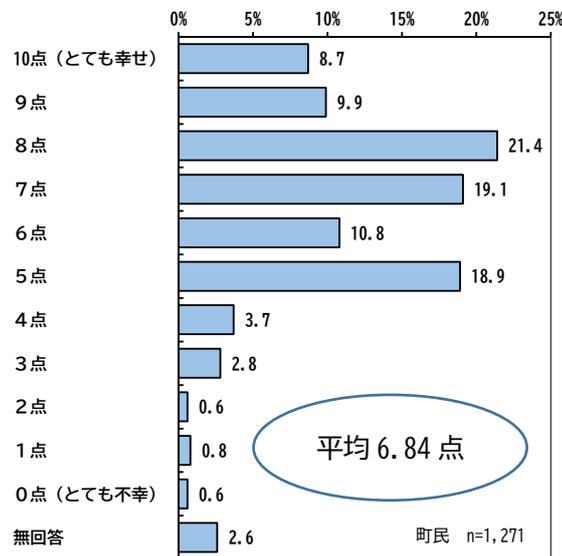
1 町民アンケート結果の概要

(令和5年2～3月実施。有効回答数 町民1,273人+職員152人。)

町民の幸福度を上げていくことが課題

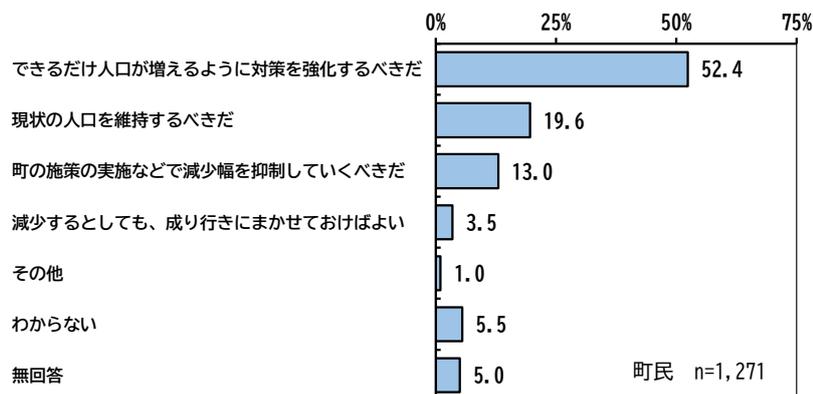
Q：あなたは、現在どの程度幸せですか。(○は点数に1つだけ)

※「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点として、ご記入ください。



人口減少に対する危機感は強い

Q：今後、山北町の人口対策をどのようにしたら良いと思いますか。(○は1つだけ)

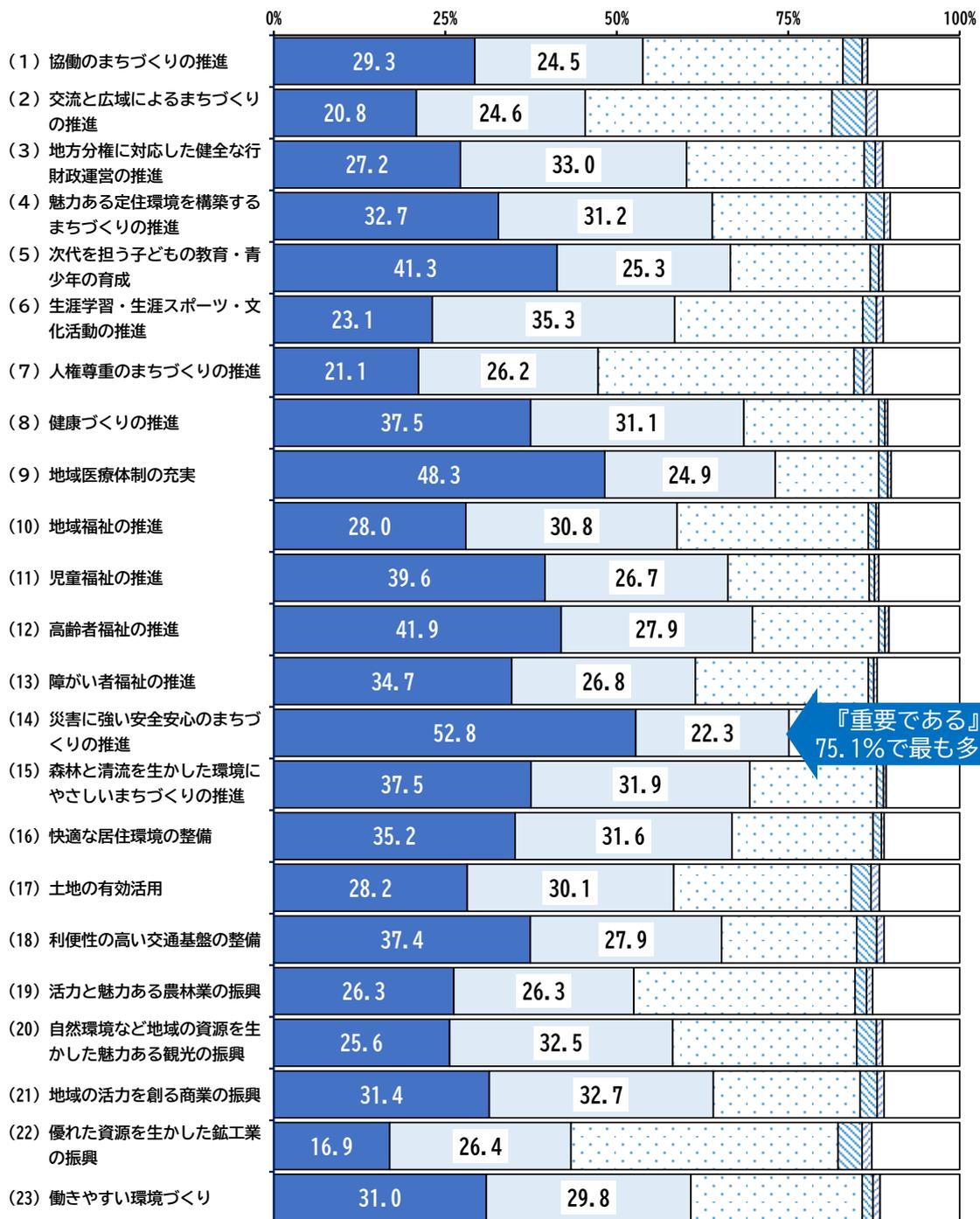


災害に強い安全安心のまちづくりが求められている

Q：山北町で推進してきた23の取り組みについて、重要度を教えてください。

< 町民の考え >

町民 重要度 n=1,271



『重要である』
75.1%で最も多い

■ 重要である □ やや重要である □ どちらともいえない
 ■ あまり重要ではない ■ 重要ではない □ 無回答



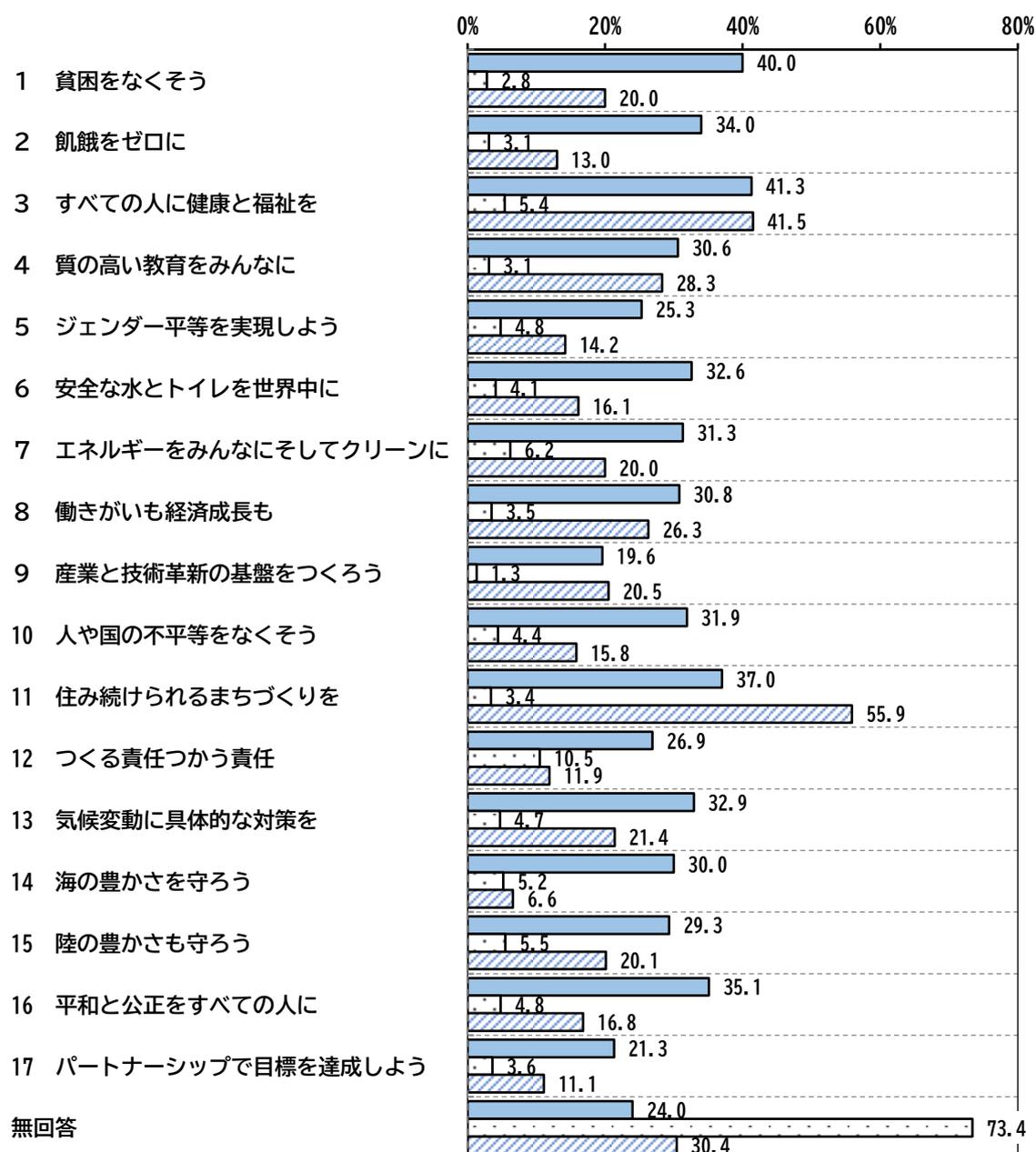
住み続けられるまちづくりが求められている

Q：SDGsの17のゴールのうち、①あなたの関心があるゴールは何ですか。②あなたがすでに取り組んでいるゴールは何ですか。③山北町が重点的に取り組むべきゴールは何だと思えますか。

(〇はいくつでも)

< 町民の考え >

町民 n=1,271



①関心があるゴール
 ②すでに取り組んでいるゴール
 ③山北町が重点的に取り組むべきゴール



第2編

基本構想



第1章 基本理念



～まちづくりのキーワード～

本計画では、「柔軟性」、「機動性」、「持続可能性」を基本理念として定め、新しい事業を行う場合や方向転換を行う場合など、これら3点に立ち戻って施策や事業を展開することとします。

1 柔軟性

社会経済状況や町を取り巻く変化を見極め、柔軟な思考をもってまちづくりを進めます。

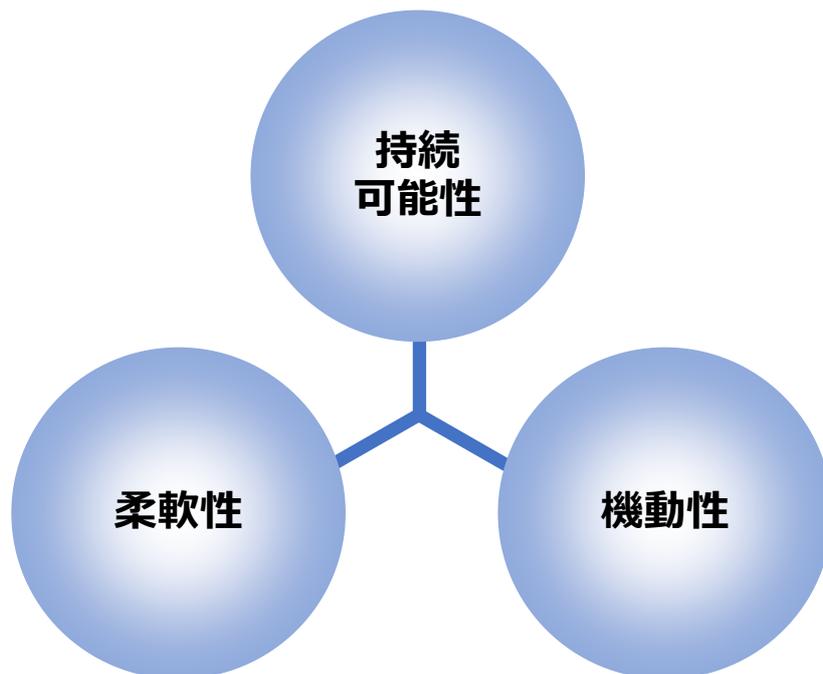
2 機動性

国・県・近隣市町の動きや町民ニーズなどを素早く捉え、機動的に動いてまちづくりを進めます。

3 持続可能性

環境、社会、経済の3つの側面それぞれに配慮した、持続可能なまちづくりを進めます。

【まちづくりの3つのキーワード】



～SDGsの推進～

SDGsは全世界共通の目標です。国、都道府県、市町村、企業、団体、ひいては個人のレベルまで、SDGsを自分事として取り組む必要があります。中でも、山北町が推進する取り組みは、SDGsの17のゴールと結びつくものが多いことから、総合計画を推進することがSDGsの推進につながるものと捉え、一体的に推進します。



目標1 貧困をなくそう
あらゆる場所あらゆる形態の貧困を終わらせる



目標2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養の改善を実現し、持続可能な農業を促進する



目標3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する



目標4 質の高い教育をみんなに
すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する



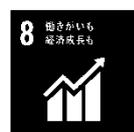
目標5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児のエンパワーメントを行う



目標6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する



目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的なエネルギーへのアクセスを確保する



目標8 働きがいも経済成長も
包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する



目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る



目標10 人や国の不平等をなくそう
国内及び各国間での不平等を是正する



目標11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する



目標12 つくる責任つかう責任
持続可能な消費生産形態を確保する



目標13 気候変動に具体的な対策を
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる



目標14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する



目標15 陸の豊かさも守ろう
陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する



目標16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する



目標17 パートナリシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化



第2章 将来像

本計画の策定にあたり、18歳以上の町民の方々に無作為でアンケート調査を実施したほか、小学生、中学生、高校生、各種団体、移住定住者にもご意見をお聞きしました。その結果、人口減少や大規模災害への危機感が強く、SDGsではゴール11「住み続けられるまちづくりを」を重点にすべきとの意見が多くありました。こうしたことから、町の将来像を次のとおり定めます。

みんなでつくるみんなのやまきた ～持続可能なまちづくり～

【みんなでつくるみんなのやまきた】

山北町は自治基本条例で、町民、行政及び議会が対等な立場で参加する協働によるまちづくりを規定しています。これまでも多くの方々の意見に耳を傾け、協働によるまちづくりを進めてきました。そしてこれからも、みんなでまちづくりを行う、この姿を追い求めていきます。

【持続可能なまちづくり】

山北町が持続可能なまちであるためには、人口減少、少子化、高齢化の進展が最大の課題であり、その進展具合をできる限り抑えることが必要です。

これまでも移住・定住対策、関係人口の増加、子育て支援などに重点を置いて取り組んできました。そしてこれからも、多くの方が行き交う、この姿を追い求めていきます。

みんなでつくるみんなのやまきた

【持続可能なまちの姿】

- 人口の減少比率が抑制され、若者の比率が向上している
- 関係人口が増加し、地域経済が活性化できている
- 森林の保全と利活用が進み、山北らしさが継承されている
- 防災・減災の取り組みが進み、町民の生命や財産が保護されている
- 移動・買物・介護に困る方が発生せず、町民サービスが行き届いている

他に・・・

みんなでつくる活気あふれるまち やまきた

という意見もあります。

2 土地利用構想

第5次総合計画後期基本計画における土地利用構想の章立てを記載。

(1) 土地利用の基本理念

(2) 土地利用の基本方針

①用途地域の土地利用方針

②特定地域※の土地利用方針

※特定地域：平成5年に神奈川県が策定した「特定地域土地利用計画策定指針」に基づく表現であり、都市計画区域内で用途地域が指定されていない地域（白地地域）と都市計画区域外の全域を指します。

令和5年度と6年度の2か年において、第4次土地利用計画を策定します。
令和5年度は、土地利用の基本的な考え方を取りまとめた土地利用構想を策定し、第6次総合計画の土地利用構想に反映させます。





第4章 重点プロジェクト



本計画の将来像である「みんなで作るみんなのやまきた～持続可能なまちづくり～」の実現に向けて、特に重要と考えられる取り組みを、重点プロジェクトとして次のとおり定めます。この重点プロジェクトに関連する事業は、今後優先的に実施していくこととします。

1 元気創出プロジェクト（やまきたチャレンジ）

関係人口の増加に向けて、まずは山北町を知ってもらうことが必要です。そして、町の魅力に触れた方が町を訪れ、リピーターとなって、移住を検討するようになります。

新東名高速道路のスマートICの新設は、来訪者を増やすきっかけとなることから、この機会に町全体へ元気があふれるような取り組みを推進し、持続可能性を高めていくことが重要になります。

そのため、「元気創出プロジェクト」を重点的に推進します。

施策1 スマートIC周辺土地利用構想の実現

- ▶ オアシス公園、河内川ふれあいビレッジの再整備を推進します。
- ▶ 旧清水小・中学校、旧清水保育園の跡地活用を推進します。
- ▶ 新東名高速道路「河内川橋」を望む眺望スポットの整備を推進します。
- ▶ スマートICを核として、町内を周遊する観光ルートを開発します。
- ▶ スマートICを中心とした広域幹線道路の整備を促進します。

施策2 効果的な土地利用

- ▶ 丸山地区町有地や中川地区町有地などの土地利用を推進します。
- ▶ 都市マスタープラン※や住宅マスタープランに基づく都市基盤整備を推進します。
- ▶ 未利用公有地等の有効な利活用を図ります。
- ▶ 山北駅、東山北駅周辺のにぎわいを創出します。

※都市マスタープラン：都市づくりの具体性ある将来ビジョンを確立し、個別具体的な都市計画の指針として地区別の将来あるべき姿をより具体的に明示し、地域における都市づくりの課題とこれに対応した整備等の方針を明らかにしたもの。



施策3 オンリーワンの磨き上げ

- 森林環境の保全・整備や木材の利活用を推進します。
- 蒸気機関車「D52」を活用して誘客を図ります。
- 各観光拠点の再整備や魅力を高める取り組みを図ります。
- 「山北のお峰入り」をはじめとした文化財や伝統文化、歴史的資源の保存・活用・継承を図ります。
- ふるさと納税やクラウドファンディングを活用した取り組みを推進します。

施策4 より一層の移住・定住対策

- 様々な交流事業をとおして山北町の魅力を発信します。
- 未利用公有地の宅地化を推進します。
- 空き家バンクを活用した定住対策を実施します。
- 移住者の起業を支援します。

施策5 DXの推進

- 庁舎内のデジタル化を進め、窓口サービスの向上に取り組みます。
- 行政事務のデジタル化を進め、町民や職員の負担軽減に努めます。
- マイナンバーカードの普及・活用を促進します。
- デジタル技術を活用して、関係人口の増加に取り組みます。



2 魅力向上プロジェクト（やまきた版 Well Being）

山北町に住みたい、住み続けたいと思われるためには、山北町の魅力を知ってもらうことが必要です。

山北町の魅力の一つに豊富な自然があげられます。都会化を目指すのではなく、豊かな自然を守りつつ、町民も来訪者も、Well Being（肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態）を実感できること（やまきた版 Well Being）が重要です。

そのため、「魅力向上プロジェクト」を重点的に推進します。

施策1 より一層の子育て支援

- 妊娠、出産、育児と、切れ目のないきめ細かな支援を推進します。
- 子育て支援センターなど、子育て相談や情報交換、交流の場を提供します。
- 保育サービスなどを充実するとともに、子育てにかかる負担を軽減します。
- 乳幼児のための安全・安心な環境づくりを推進します。

施策2 誰一人取り残すことのない支援

- 困ったときに相談できる体制を整え、その周知を行います。
- 生活困窮者、ひきこもり、ヤングケアラーなど、弱い立場にある人を支援します。
- 関係機関と連携し、児童虐待やDVなどの被害者を支援します。
- 災害時に迅速な対応が行えるよう、事前の備えや支援体制の構築を図ります。

施策3 未来へつなげる教育・保育の推進

- 0歳から15歳までの一貫教育・保育をとおして人間力[※]と社会力[※]を育成します。
- 園、小学校、中学校、さらに高等学校との相互の連携と交流を図ります。
- ICTを活用した学習機会の提供のほか、教育環境整備を推進します。
- 山北にふれ、山北を学び、愛着がもてるよう探求学習を推進します。

※人間力：基礎的な素養を身につけ、自己実現を図っていく力や身近な人とともに適切な関係を結び、生きていく力。

※社会力：社会とかかわりを持ち、社会の一員となって役割を果たしつつ、生きていく力。



施策4 生活交通・移動手段の確保

- 地域公共交通計画に基づき、利用者の立場に立った新たな地域公共交通システムを構築します。
- 御殿場線の便数の増加や路線バスの維持を関係機関に働きかけます。
- ドローンによる配達など、地域にあった新技術を活用します。

施策5 脱炭素社会の実現

- 町全体のCO₂の排出を削減し、脱炭素社会を目指します。
- 地域に適した再生可能エネルギーの導入を促進するなど、地球にやさしい取り組みを推進します。

施策6 防災対策の充実

- 防災のまちづくりの気運や町民意識を高めます。
- 計画的に地域防災計画を見直します。
- 自主防災組織の体制強化を図ります。
- 防災備蓄物資の充実を図ります。





第5章 分野別構想

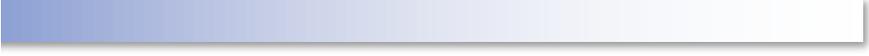


- 1 健康福祉分野 

- 2 教育文化分野 

- 3 生活環境分野 

- 4 産業振興分野 

- 5 都市基盤分野 

- 6 行財政分野 